



世界一豪華な広場

ベルギー編②

ヨーロッパの都市を訪れると旧市街と新市街に分かれているところが多い。中世の面影を残す旧市街の中心には広場がある。車がなかった時代の



広場で最も華麗な建物「市庁舎」

街は広場への道路は狭く、馬車が石畳の上を走る風景は独特な趣がある。

ベルギーの首都ブリュッセルの旧市街はその典型である。世界遺産にも登録されている広場の名前は「グランプラス」、縦

七十メートル、横百十メートルの長方形で、余り広くはない。周囲を歩いても五分余り、広場に面した四辺には市庁舎、王の家（今は市立博物館）、ギルドハウス

（同業者が相互扶助を目的とした組合の家）が所狭しと立ち並ぶ。

この広場は十一世紀ごろは市場として栄え、一四五五年に市庁舎が建てられた。中央の石造

りの尖塔（せんとう）の高さは九十六メートル、頂上にはブリュッセルの守護の天使、ミカエルの像が輝いている。

私は教会が威風堂々としているのは好きではない。中世のヨーロッパは余りに教会に権力が集中し、神の愛を証する自由な雰囲気も失っていたように思える。ブリュッセルのシンボルともいえる広場の中心の市庁舎にミカエル像を見た時、ベルギー市民の自由、活気のようなものを感じた。

今、ヨーロッパの国々のカトリック信徒が減少傾向にある中、ベルギー国民の七五％がカトリック信者ということに何か喜びを感じる。ちなみに今回訪れたもう一つの国、オランダは三〇％である。

さて、一六九五年にブリュッセルはフランス軍の攻撃を受け、広場の中央の

石造りの尖塔だけが焼け残った。市民はすぐに再建に取り掛かり、現在の美しいグランプラスを完成させた。

「レ・ミゼラブル」を書いたフランスの文豪、ビクトル・ユーゴーは一八五一年、ナポレオン三世の独裁政治に激しく反対し、亡命を余儀なくされた。亡命生活

中、しばらくこのグランプラスのギルドハウスに滞在した。その時、この広場を「世界で最も美しい広場」と表現した。

今年の一月一日の夜、ロンドンでミュージカル「レ・ミゼラブル」を見て感動した。小説は亡命中に書かれたものだが、十八年間に及んだ苦しい

亡命生活とレ・ミゼラブル（みじめな人々）の主人公、ジャン・バルジャンがオーバードラップする。彼がグランプラスの広場が世界で最も美しいと言ったのは、美観だけでなく、同業者組合を結成し、広場を中心に自由に生き生きと生活する市民の姿を含めて表現したと想像する。ユーゴーが過ぎた時代にタイムスリップし、広場にしばらく立ちすくんだ。

ミュージカル「レ・ミゼラブル」のパネルレット

完成させた。



ミュージカル「レ・ミゼラブル」のパネルレット